

なりわいのバトンを

受け継ぐ人がいます

東日本大震災から間もなく13年を迎えます。

震災に伴う原発事故の影響で全村避難となった飯舘村では、多くの人が「なりわい」の中断を余儀なくされ、そのまま廃業に追い込まれた人も少なくありませんでした。また、先の見通しが立たない中、「なりわい」を何とか継続しようと避難先で取り組んだ人も大変な苦勞をされました。

長泥地区を除く19の行政区で避難指示が解除されたのは平成29年。発災からおよそ6年が経過していました。そのような状況から「なりわい」を再開することは並大抵なことではありませんでしたが、前を向き、課題を乗り越えながら、村内で事業を再開する動きが「つまたつ」と生まれていきました。

今回、3・11を前に、「なりわい」のバトンを受け継ぐこうとしている「ふるさとの担い手」にお話を聞きました。なりわいのリレーの4つのエピソードを紹介します。



『手打ちうどんの店 糸びす庵』の老舗の味は両親と共に暖簾を守る高橋均さん(飯樋町)が受け継いでいます。



『氣まぐれ茶屋ちえこ』P 9の記事へ。



佐藤隆人さんは祖父、父らが営む牧場で畜産のやりがいに触れました。P 7の記事へ。



地域活性化に取り組む飯舘村商工会青年部の皆さんもなりわいをリレーする担い手集団。



親世代の心意気を継いで次世代も参入。規模を拡大して集落営農に取り組む『13区営農組合』。



『前田明神そば』P 8の記事へ。



北海道の大学で畜産を学び、この春卒業を迎える佐藤天斗さん。避難により小学3年生でふるさとを離れましたが、祖父、伯母がつないだ家業の畜産を自分の仕事にしようと考えています。(アルバイトをしている北海道の牧場の牛舎にて) P 6の記事へ。